

平成 20 年 7 月 9 日

各 位

東京都港区南青山五丁目4番35号
株式会社リンク・セオリー・ホールディングス
代表取締役社長 佐々木 力
(コード番号：3373 東証マザーズ)
問合せ先 取締役グループ CFO 大西 秀亜
TEL 03-3407-7502(代表)

米国子会社に対する円建て貸付金に係る営業外損失（為替評価損）の 発生に関するお知らせ

平成 20 年 8 月期（平成 19 年 9 月 1 日～平成 20 年 8 月 31 日）において、米国子会社 Link Theory Holdings (US) Inc.に対する円建て貸付金に係る為替評価損が下記の通り発生いたしますのでお知らせ致します。

記

1. 為替評価損の内容と理由

当社は、米国を重要市場として位置づけ、米国子会社に対して、2003年に米国セオリー社を買収した際の買収資金や店舗開発資金など約 115 億円(2008年6月末現在)の貸付（「円建て親子ローン」）を行っております。一方、米国子会社は日本において Theory 等を運営する当社子会社株式会社リンク・インターナショナルが支払う円建てロイヤリティを、本件円建て親子ローンの元金支払いに充当しております（注 1、参考 2）。

この円建て親子ローンについて、米国子会社において各決算期末の為替レートで現地通貨に換算替えする際の為替評価損益を連結会計上、営業外損益として認識する必要があります。今期においては、当社の想定を上回って円高ドル安が進行したために、米国子会社に対する円建て親子ローンに係る為替評価損を 1,699 百万円計上する見込となりました（期初予想に対して 886 百万円の増加）。

但し、米国子会社は日本子会社からの円建てのロイヤリティ収入をそのまま借入金の返済に充当しており、取引は全て連結グループ内で完結しているため、実質的な為替リスクを負っておらず、また当社の連結上も為替変動による資金流出はなく、キャッシュフローにも影響はありません。

なお、当社連結経常利益は本件円建て親子ローンに係る為替評価損益に大きく影響されることがあり（参考 1）、当社グループの事業動向把握については営業損益をもってご判断いただくことが適切であります。

（注 1）投下資金を回収する方法として税務上最も効率良い手法として円建て貸付金を採用しております（資本・出資の形態をとった場合に資金回収は配当となり、当社にとっての益金とみなされ税負担が発生します）。

L T H

(米国子会社に対する円建て貸付金に係る為替評価損益について)

(単位：百万円)

	円ドル為替レート	米国子会社向け 円建て貸付金残高	為替評価損益 (損失の場合：△) (注2)
前期 (2007年6月30日)	1ドル=123.27円	12,057	736
今期当初予想 (2008年6月30日)	1ドル=115.00円	11,200	△813
今期実績 (2008年6月30日)	1ドル=106.42円	11,531	△1,699

(注2)米国子会社に対する円建て貸付金に係る為替評価損益の金額。連結財務諸表上の為替評価損益にはこれ以外に欧州子会社に対する円建て貸付金に係る為替評価損益等も含んで表記しています。

2. 通期業績の見通し

上記営業外損失の影響を勘案した平成20年8月期通期連結業績予想については、本日発表の「平成20年8月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

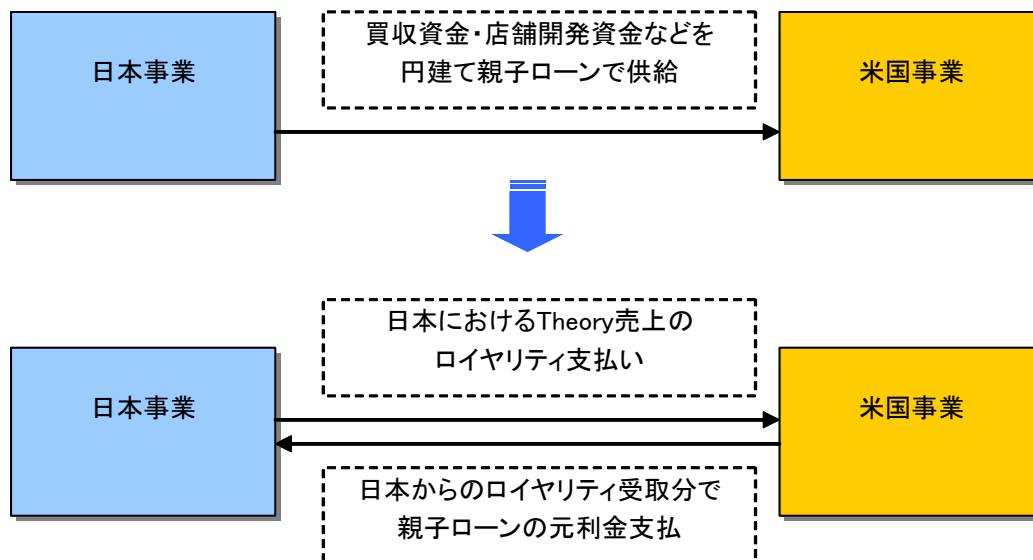
(参考1) 過去の為替差損益の推移 (注3)

(単位：百万円)

決算期	為替評価損益
2004年8月期	△339
2005年8月期	97
2006年8月期	171
2007年8月期	918

(注3) 2007年8月期には欧州子会社に対する円建て貸付金に係る為替評価損益等も含まれています。

(参考2) 米国に対する円建て貸付金の仕組みについて



以上